

2019年1月28日

高齢者がん医療を考える会議（第1回）の開催

高齢者がん医療協議会（コンソーシアム）

厚生労働科学研究費 補助金（がん対策推進総合研究事業）

「高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究」

研究代表 田村和夫

日 時： 2月16日（土）13時00分~17時00分

会 場： TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター10B

東京都中央区八重洲 1-8-16 新槇町ビル

タイトル： 高齢者がんの診療方針を立てるにあたって PS と年齢だけでよいか？

参加者： 医療関係者とがん関連団体代表 30名~40名

班員

高齢者がん医療協議会（コンソーシアム）メンバー

老年医学会代表

がん患者の代表

JSMO ガイドライン委員会委員

高齢者がん医療 Q&A 執筆者

目 的：

高齢のがん患者は、加齢に伴う心身機能の低下、認知機能の低下、社会・経済的な問題を抱えている。一方、非高齢がん患者はその治療方針を決定するにあたって Performance Status(PS)が重要な指標として使用される。日常診療のなかで、種々の問題を抱える高齢がん患者を前にして、非高齢者同様 PS のみを指標とした治療方針の決定が妥当かどうか、その他の指標を応用すべきかどうか異なる stakeholder が一同に会し議論し、コンセンサスを得ることを目的とする。その成果は、高齢者がん医療のガイドライン作成にあたって有用な情報となるものである。

第1回会議の到達目標

- ① 加齢に伴う人体の変化を理解する
- ② 高齢者の機能評価を理解し、臨床に応用できる
- ③ 高齢者がん診療の現状と課題を理解する
- ④ 患者・家族の求める高齢者がん医療を理解する

プログラム

司会 田村和夫（研究代表、福岡大学）

1. 本会の趣旨 田村和夫 5分
2. 第3期がん対策推進基本計画と高齢者がん医療
（本邦の老年腫瘍学の流れを含めて）
長島文夫（研究分担者、杏林大学） 30分/35
3. 老年医学の立場から
 - ・ sarcopenia の病態 45分
重本和宏先生 東京都健康長寿医療センター研究所 自然科学系副所長
 - ・ 高齢者機能評価の開発経緯と応用、その成果 45分/125
秋下雅弘先生 老年医学会 副理事長（東京大学 老年病科教授）
 - ・ 質疑・応答 10分/135

休憩 15分/150

司会 長島文夫

4. 腫瘍医の立場から
 - ・ 高齢がん患者に関する研究はどこまで進んでいるか？
～ASCOのガイドラインの紹介を含めて
津端由佳里（研究分担者、島根大学） 30分/180
5. 認知障害と意思決定支援
小川 朝生（国立がん研究センター東） 20分/200
長島 文夫（研究分担者、杏林大学）
6. 患者・家族、サバイバーの立場から
 - ・ 高齢者のがんの診療にあたって考えること・望むこと 20分/220
天野慎介 全国がん患者団体連合会理事長
7. 参加者全員による質疑・応答、ディスカッション 20分/240